



「kyoから!未来を拓く」～受け継ぎ、創る新たなストーリー～をテーマに、令和元年の8月22日（木）・23日（金）に、第69回全国高等学校PTA連合会大会京都大会が、開催されました。京都の地で、全国大会を開催するのは、第69回にしてはじめてのことです。

京都府立高等学校PTA連合会と京都市立高等学校PTA連絡協議会が、全国大会をはじめて主管することで、不安を抱えながらの大会準備と運営ではありました。が、大会には、約10,300名の方にご参加いたしました。

体会に参加していただきました。全体会終了後には、6つの分科会をそれぞれの会場で開始いたしました。  
第1分科会は、ロームシアター京都のメインホールとサウスホールで、第2分科会は、みやこめつせ地階の日図デザイント博物館と第1展示場A面で、第3分科会は、みやこめつせ1階の第2展示場AB面で、第4分科会は、みやこめつせ3階の第3展示場C面で、第5分科会は、みやこめつせ1階の第2展示場CD面で、第6分科会は、みやこめつせ3階の第3展示場B面で、行いました。

1日目の大会開始前には、京都府立工業高等学校のMambou Jazz Bandの生徒アトラクションが、大会上華を添えてくれました。

また、今回の京都大会から1日目が午後開始となつたことから、大会参加される方で前泊される方や早朝に到着される方を対象に、少しでも京都

## CONTENTS

全国大会 京都大会	1	定時総会報告	13
分科会報告	3	令和元年度一般社団法人	
全国大会京都大会アンケート結果	6	全国高等学校PTA連合会役員・委員名簿	14
地区大会	7	組織概要・会員概況	15
北海道地区／東北地区／関東地区／東京地区／北信越地区 ／東海地区／近畿地区／中国・四国地区／九州地区		賠償責任補償制度のお知らせ	16

を知つていただく機会を提供したいとのことで、京都ならではの「ログラム」を、京都のスタッフが企画いたしました。

京都市内にたくさんの設置されている大学のうち8大学の訪問コース、京都の物づくり企業のうち6企業の訪問コース、京都の文化財訪問として2コースを選定し、大会参加申し込みとともに、全国に募集をいたしました。

お陰様で、約1箇月間の募集期間にも拘わらず、募集開始の1ヶ月で申し込み者が定員を充足し、京都への関心の高さを実感いたしました。



京都府立工業高等学校 Mambow Jazz Band のみなさん

しかしながら、多くの大学訪問コースで10名から20名の当日キャンセルがあり、募集期間中に定員を充足した後に申し込みをされ、参加のお断りをさせていただいたみなさんには、心よりお詫び申し上げます。

大会2日目は、京都府立塔南高等学校の「塔南マーチングバンド・ザ・グリフォンズ」の元気な演奏と京都府立鳥羽高等学校の節をつけて和歌を詠む「披講」が、開催前のアトラクションとして行われました。



## 塔南マーチングバンド・ザ・グリフォンズ

や運営に少なからず戸惑い苦労してきた京都のスタッフにとつて、たくさんのお声掛けは、何よりもご褒美となつたは美とです。



永守重信氏

までの全国大会の開催ガイドラインと新ガイドラインを発展的に受入れることで、準備と運営に努めて参りました。

平成30年2月3日に開催された平成29年度第7回全国高P連理理事会において、全国大会開催ガイドラインの改正が承認されました。新ガイドラインは、第70回全国大会島根大会から適用されるとなりましたが、第69回全国大会京都大会も、可能な限り新ガイドラインをトライアルすることになりました。これを受け、当時の京都の大会準備スタッフは、「大会1日目の開始を午後開始とし、昼食は各自で取つていただく。」「分科会を従来の7分科会から6分科会とし、4つの分科会を京都で企画する。」

「全体会での基調講演と記念講演を1つにまとめる。」等を、京都大会でトライアルし、特色ある大会を目指したところです。

特色の一つ目として、大会が行われない1日目の午前を利用して、「京都ム」として、大学、企業及び文化財訪問コースを

来年度の第70回全国大会島根大会は、新しいガイドラインに基づいて開催されます。京都大会のトライアルが、今後の充実した全国大会開催につながるものと期待いたします。

企画いたしました。二つ目には、従来の加盟校が実践発表する分科会がなくなり、主管が4つの分科会のテーマと企画を担当することになりました。分科会では、基調講演とパネルディスカッションを基本としながら、参加者自らも積極的にに参加していただける分科会を企画いたしました。

三つ目の特色として、全体会での講演を1つとすることや全体会会場と分科会会場の移動時間をなくすことなどにより、これまでの1日半で開催されていった大会内容を大会1日目の午後と2日目の午前合わせて1日の時間帶で収まるよう、スケジュールを作り上げました。

新しいガイドラインのトライアルで、これらの特色ある大会となり、また、経費節減の負担を減ら

云実行委員長・  
奥野貴史)





## 第三分科会

すべりの未来の仕事  
～Society5.0～

## において求められる 人材像、学びの在り方／

第三分科会「すぐそこの未来のしき」とともに考えるSociety5.0において求められる人材像、学びの在り方」は講師として株式会社片岡製作所より代表取締役の片岡宏二氏、Classi株式会社より代表取締役副社長の加藤理啓氏、コーディネーターとして岡山大学全学教育・学生支援機構准教授の中山芳一氏を招き、700名ほどの参加者とともに社会や技術の変革の真っただ中にある現在の教育について講話をいただきました。片岡氏からは社業であるリチウムイオン電池開発から今後更なる発展が期待されるAIにわた

A photograph of a panel discussion. Three people are seated behind a long white table with microphones. The person on the left is an older man in a suit, the middle is a woman in a dark blazer, and the person on the right is a younger man in a pinkish-purple jacket. In front of them, the backs of several audience members' heads are visible. A whiteboard with some text is partially visible on the right side of the stage.

開発した学級経営ツールClassiを参加者が体験し、教室の中から学びを変えるイノベーションについて語つていただきました。それを踏まえ、中山氏を交えたパネルディスカッションにおいて、これから社会や企業から求められる子どもたちの資質について片岡氏からは「自分から物事に取り組む能動性を育むことが大切」、加藤氏からは「体験させる環境に身を置くこと」との意見が出され、まとめとして中山氏から「体験→経験→学び」、PDC-Aに代

わる「Anticipation（見通し）→ Action（行動）↓ Reflection（振り返り）」のサイクルを提案いたしました。講話の中で、AIにつわる誤解について説明する箇所がございました。データープラーニングに代表される情報分析により、世の中の職業の多くが数十年後にはなくななるということがメディアにも取り上げられている中、AIが得意な分野と人間にしかできない分野といった仕事に分けて、丁寧に論じていただきました。來たるSociety5.0

の中心技術について親世代が理解を深めることとともに、世界の変化に対応する努力を惜しまないことがこれから社会に出て活躍する子どもたちを後押しするものであると感じ入ったところです。

最後に、本分科会の開催にあたり京都府立高等学校PTA連合会および京都市立高等学校PTA連絡協議会の皆様には大変なご尽力を頂き盛会となりましたことと、一参加者といったしましても大きな気づきと学びの機会を得られましたことに心から感謝申し上げます。



第69回全国高P連京都大会

## 第四分科会

# 高校生の人間関係について考える

♪高校生の本音を聞いてみませんか？

勇者でハツボハでした。

講師である原氏のユーモ  
とに随所に本音を話して

アたごみりの巧みな詰術  
しました

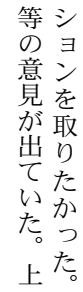
して1年内の大学進学や卒業後だから言えるア

受講者は終始引き込まれた。」これについては部

して1年内の大学生)や受講者は終始引き込まれていました。現代の高校生は特に身の周り人に本音を言いたがりませんが、業後だから言えること。」これについては部活動で悩んだ末、人間関係が上手くいかず今でも悔やんでいる。又、努力



## パネルディスカッション風景



記各論に対しても、実際  
会場にいる受講者の中か  
ら

盛り上がっていた。

## パネルディスカッション風景

ションを取りたかった。等の意見が出ていた。上

記各論に対しても、実際会場にいる受講者の中か

盛り上がっていた。

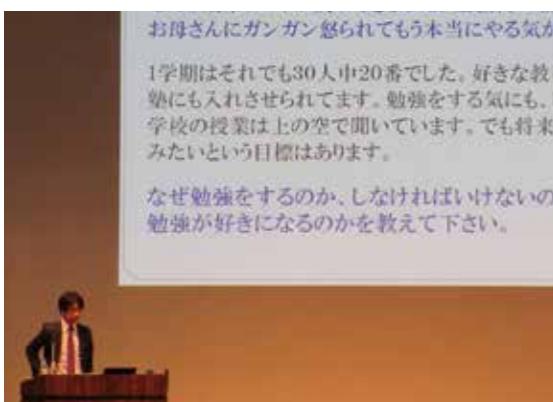


## 第六分科会

第69回全国高P連京都大会

第6分科会は山下真司様、石田勝紀様お二人の講師にテーマについてそれぞれ75分ずつご講演いたしました。リクルートキャリアガイダンス編集長の山下様は、「子どもたちが歩むこれからの中社会は?」「大学教育、高校教育、そして入試が変わること」を生きる「さわしい高大接続の実現」、「子どもたちと保護者」とし

てどう関わっていくか」という3つの話題を挙げてお話し下さいました。これから変化の激しい社会でVUCA時代を生き抜くには、その変化や偶発的な出来事に対して柔軟に対応し、取り組むべきことを見抜く力が必要で、それはAIではできない人間ならではの力であることをお聞きしました。また、これまでの知識偏重の学力



山下真司氏による講演  
力・表現力を育み主体性と協働性をもつて多様な人々と学ぶ態度を養うために、

教科・科目構成の改訂や探求を深める総合的な探求の時間の充実評価方法の多面化、入試のあり方の変革が進むとのことで、そのような変化を保つべきだ。どう受け止め子どもたちと関わってくか

が学校を応援することが求められる、とのことで、PTA活動の意義についても言及下さいました。石田勝紀さまは、「新しい時代を生きる子ども達の才能を引き出す言葉」と題して、ご自身の20歳からこれまでの様々な経験や活動から見い出した、子どもの力を引き出すマジックワードについて解説下さいま

に使っているもので、大切なのはイライラした気持ちで使わないということでした。全体を通して感じたのは、子どもの学びは、親が学校任せではなく、学校を支えながら、我が子の可能性を信じて、ユニケーションを深める姿勢を心掛けることが大切であるということでした。

第5分科会は、今年度初めての取り組みとして、賛助会員としてご協力いただいている企業の企画分科会として実施されました。

か学ぶ情報教育を  
体験してみませんか?く  
三人の講師を迎え、SNS  
に関するトラブルの予  
防対策や、プログラミン  
グ的思考を子どもがどの  
ように学んで知るか、災  
害時におけるSNSの活  
用方法などについて、講

## 情報教育を体験する



## 第五分科会

第69回全国高P連京都大会

が深まつたことと  
思います。この経験を、学校や家庭でSNSの利活用を考える切っ掛けになれば良いと思  
います。

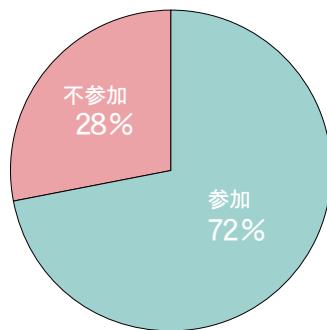
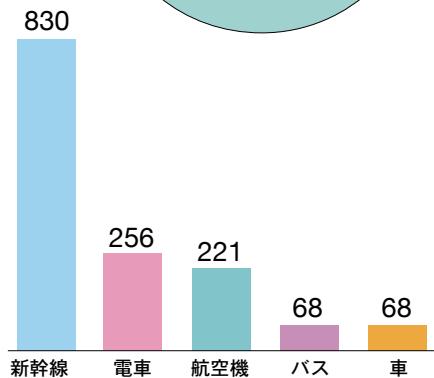
一つ残念だったことは、プログラムが小学生を対象とした  
内容が多く、高生を持つ保護者などが参加しているワークシ  
ョップとしては今後工夫が必要で  
ると感じました。



ワークショップ風景

KYOT<sup>69th</sup>**Q1**京都大会に  
参加されましたか？

参加	不参加
1,435	553

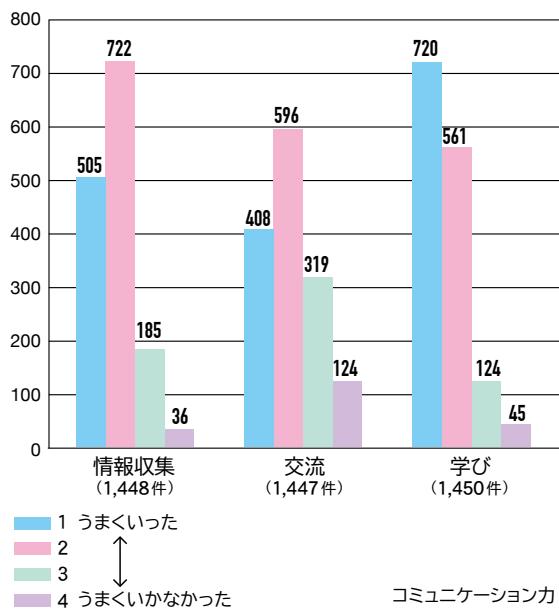
KYOT<sup>69th</sup>**Q2**参加された方にお伺いします。  
京都大会への主な交通手段を  
教えてください。

第69回全国高等学校PTA連合会大会「京都大会」のアンケートを10月9日～23日、11月1日～8日まで実施いたしました。2,003名のご協力をいただきました。

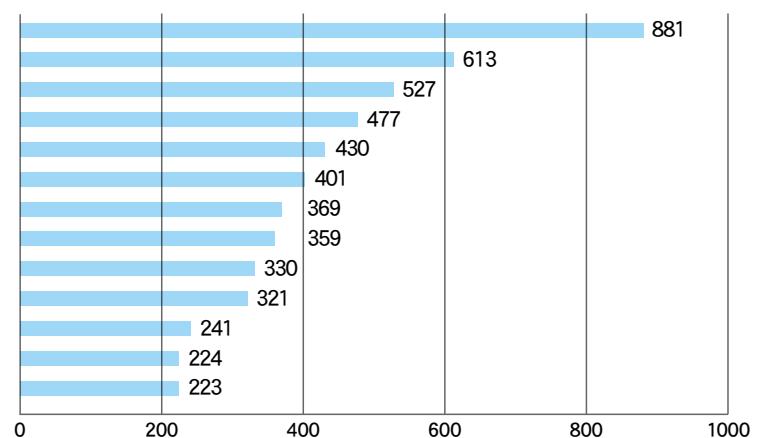
KYOT<sup>69th</sup>

# 全国大会京都大会 アンケート結果

全国高P連アンケートシステム

KYOT<sup>69th</sup>**Q3**代表的な目的についてお尋ねします。  
満足度はいかがでしたか？KYOT<sup>69th</sup>**Q5**今後どのような内容の  
研修を受けたいですか？

- コミュニケーション力
- 人材育成
- 自己肯定感
- AI（人工知能）
- キャリア教育
- スマホ問題
- 防災・減災教育
- 大学入学共通テスト
- ネットセキュリティ
- 人口減少・少子化
- 成年年齢引き下げ
- 人権教育
- 新学習指導要領



## 北海道地区 胆振・日高大会 IBURI / HIDAKA

令和元年11月1日

## 「身近な人と結ぶ信頼の絆」

地区大会報告



開会式

第69回北海道高等学校  
PTA連合会大会（胆  
振・日高大会）は6月1  
日・2日の二日間にわ  
たり苦小牧市で開催され  
ました。苦小牧市が位置  
する胆振東部から日高に  
かけての地域は競走馬サ  
ラブレッドの主産地とし  
て全国に知られており、  
現在では観光資源とも  
なっています。今大会は  
「新しい元号がスタート  
し、次代の担い手となる  
子どもたちが、変化の激  
しい時代を力強く生き  
ていくた  
めに、今、私た  
ちにできること  
について、自然  
とモノづくりが  
融合する胆振・  
日高の地で熱く語り合いましょ  
う。」を大会メッセージとして、  
全道2百23校か  
ら1千14名が参

第69回北海道高等学校  
PTA連合会大会（胆  
振・日高大会）は6月1  
日・2日の二日間にわ  
たり苦小牧市で開催され  
ました。苦小牧市が位置  
する胆振東部から日高に  
かけての地域は競走馬サ  
ラブレッドの主産地とし  
て全国に知られており、  
現在では観光資源とも  
なっています。今大会は  
「新しい元号がスタート  
し、次代の担い手となる  
子どもたちが、変化の激  
しい時代を力強く生き  
ていくた  
めに、今、私た  
ちにできること  
について、自然  
とモノづくりが  
融合する胆振・  
日高の地で熱く語り合いましょ  
う。」を大会メッセージとして、  
全道2百23校か  
ら1千14名が参



参加者の皆さん

高橋憲司大会  
実行委員長  
P  
T  
A  
連  
会  
長  
の  
國  
全  
校  
の  
中  
か  
ら  
得  
た  
事  
柄  
を  
自  
校  
の  
P  
T  
A  
活  
動  
に  
参  
加  
し  
た  
。続  
いて  
、  
白  
井  
一  
幸  
氏  
の  
講  
演  
が  
行  
わ  
れ  
ま  
し  
た  
。白  
井  
一  
幸  
氏  
は  
、  
二  
軍  
監  
督  
や  
コ  
ー  
チ  
の  
経  
験  
の  
中  
で  
、「怒  
る  
教  
え  
る  
、や  
ら  
せ  
る  
」  
と  
い  
う  
從  
来  
の  
指  
導  
方  
法  
を  
改  
め  
、「選  
手  
自  
身  
に  
考  
え  
さ  
せ  
、や  
る  
気  
を  
出  
さ  
せ  
、自  
ら  
練  
習  
に  
参  
加  
す  
る  
」  
と  
い  
う  
言  
い  
と  
訴  
え  
ま  
し  
た  
。

のテーマのもと、7月4日(木)・5日(金)、山形市総合スポーツセンターを会場に開催されました。4日には大会運営会議のほか、出席者570名による情報交換会が盛会に開催されました。5日の大会は、東北各地から1,500名を超える参加者を迎えて、オーブンングとして、東北唯一の公立高校に音楽科のある山形県立山形北高校

のテーマのもと、7月4日(木)・5日(金)、山形市総合スポーツセンターを会場に開催されました。4日には大会運営会議のほか、出席者570名による情報交換会が盛会に開催されました。5日の大会は、東北各地から1,500名を超える参加者を迎えて、オーブンングとして、東北唯一の公立高校に音楽科のある山形県立山形北高校



分科会風景



新井田寛会長

取り組ませることによ  
り、若手選手が成長して  
いった具体的な場面を例  
に、コーチングの在り方  
について熱く語りました。  
参加者からは、高校生の  
親である自分にとっても  
子育ての在り方に多くの  
示唆を与えられたとの声  
が寄せられました。

第2日目は、苦小牧東  
高校協会会长から祝辞を  
いただきました。さらに、  
当連合会に功績のあった  
1団体と個人20名、単位  
P T A役員として貢献し  
た91名に対し表彰が行わ  
れ、開会式を終えました。  
続いて、「可能性を引き  
出すコミュニケーション」  
と題して、元北海道日本  
ハムファイターズ内野守  
備走墨コーチ兼作戦担当  
の白井一幸氏による講演  
が行われました。白井氏  
は、二軍監督やコーチの  
経験の中、「怒る、教  
え、やらせる」という從  
来の指導方法を改め、「選  
手自身に考えさせ、やる  
気を出させ、自ら練習に  
参  
加  
す  
る  
」  
と  
い  
う  
言  
い  
と  
訴  
え  
ま  
し  
た  
。

Aが協働活動の在り方  
方、「学校・地域・P T  
Aが協働活動の在り方」  
など多様なテーマのもと、  
活発な意見交換が行われ  
ました。ワールドカフェ  
方式など少人数でのディ  
スカッションも多く取り入  
れられ、全道からの参加  
者が大会に参画した実感  
を持てる大会にしていき  
たいという目的を達成す  
ることができました。分

科会は、胆振・日高の28  
校のP T Aが運営にあ  
りました。来年度は、札  
幌市で第70回という節  
目の大会が開催されます。  
なお、大会に先立つて  
挨拶の後、来賓の佐藤嘉  
大北海道教育委員会教育  
長、宮下聰北海道高等学  
校長、宮下聰北海道高等学  
校長協会会长から祝辞を  
いただきました。さらに、  
当連合会に功績のあった  
1団体と個人20名、単位  
P T A役員として貢献し  
た91名に対し表彰が行わ  
れ、開会式を終えました。  
続いて、「可能性を引き  
出すコミュニケーション」  
と題して、元北海道日本  
ハムファイターズ内野守  
備走墨コーチ兼作戦担当  
の白井一幸氏による講演  
が行われました。白井氏  
は、二軍監督やコーチの  
経験の中、「怒る、教  
え、やらせる」という從  
来の指導方法を改め、「選  
手自身に考えさせ、やる  
気を出させ、自ら練習に  
参  
加  
す  
る  
」  
と  
い  
う  
言  
い  
と  
訴  
え  
ま  
し  
た  
。

東北地区 山形大会 YANAGATA  
「一人ひとりの個性が奏であう未来へ」  
～自立・協働・創造を目指して～  
地区大会報告

(7) 令和になつて最初とな  
る第68回東北地区高等学校  
は、「一人ひとりの個性が  
奏であう未来へ～自立・  
協働・創造をめざして～」

校PTA連合会山形大会  
奏であう未来へ～自立・  
協働・創造をめざして～

のテーマのもと、7月4  
日(木)・5日(金)、山形市  
総合スポーツセンターを  
会場に開催されました。  
4日には大会運営会議  
のほか、出席者570名に  
による情報交換会が盛会に  
開催されました。

5日の大会は、東北各  
地から1,500名を超  
える参加者を迎えて、オ  
ーブンングとして、東北  
唯一の公立高校に音楽科  
ある山形県立山形北高校

3年櫻井紗花さんによ  
る、山形県民の歌「最上  
川」の独唱があり、清々  
しい空氣に包まれる中、  
千場義彦実行委員長の開  
会宣言に統じて安食克彦  
大会会長及び牧田和樹全



令和元年7月6日(土)、全国高P連牧田和樹会長代理 大石幸和副会长に経営企画室長会長澤悟様、東京都公立高校退職校長協会副会长で当連合会相談役もお願ひしております天沼照夫先生にご出席いただき、東京都在してあります。31回東京地区高等学校TA連合会大会を開催いたしました。今回の基調講演講師は、昨年の第68回全国高TA連合会大会を開催いたしました。佐賀大会でもご講演いたレモンさんです。



基調講演

です。佐賀大会でのお話を忘れられず、ぜひ東京の仲間にも聞いて欲しくて講師をお願いしました。ご自身もPTA会長をなさつていただけます。佐賀大会は、今年の第68回全国高TA連合会大会を開催いたしました。

PTA会長の元木朝子さんが「夢を創造する」をテーマに、農業高校の専門的な各科の紹介や生徒の学び、そしてPTAの取り組み、学校・PTA・家庭で子供を育てるこ

とを大事にしていることが伝わってくるお話をしました。そしてPTA事例発表では、



表紙が良かったで賞の投票風景

の大切さ、実践することの大切さなどを発表してくれました。そして各学校から応募のあつた広報誌の「広報誌コンクール表彰式」です。各賞は事前に決定していますが、当日会場に足を運んでくれた参加者みなさんには、広報誌の表紙を選び投票してもらい決まりました。この「特別賞」(表紙が良かったで賞)が注目されています。

未加盟校が増えている東京ですが、コンクールは未加盟校からの応募も多く、貴重な接点になっています。

アトラクションの生徒発表も充実した盛りだくさんの充実した内容でした。



アトラクションの生徒発表

地区大会報告  
「縊～人とひととのつながり」

## 東京大会

TOKYO

第65回関東地区高等学校PTA連合会大会  
埼玉大会総会第65回関東地区高等学校PTA連合会大会  
埼玉大会全体会開会式第65回関東地区高等学校PTA連合会大会  
埼玉大会記念講演会  
講師／タレント・向井亜紀様第65回関東地区高等学校PTA連合会大会  
会場の皆様

「郷から未来を拓く」  
～受け継ぎ、創る新たなストーリー～

地区大会報告

## 長野大会

NAGANO



開会式  
上がり、蒸  
し暑い中で  
したが、北  
信越各県よ  
り1,162名  
が参加し  
盛大に行わ  
れました。

開会式では、主催者は、主催者を代表して松下妙子北信越地区高連会長より、この研究大会に参加されて感じたことを、是非一緒に開催されました。長野市は、ホタル文化ホールで3分科会、メルパルク長野で1分科会と分かれての開催でした。が、各県からの特色あるPTA活動20例の実践発表に活発な質疑応答や意見交換が行われ、充実した分科会となりました。

夕刻から行われた教育懇談会では、820名程の参加者が2会場に分かれ、地元の食材を使った料理や、信州の銘酒に舌鼓を打ちながら、各県単Pの枠を超えてお互いの懇親を深めることができました。

次期開催県福井県高P連の齋藤力会長より「来年福井で開催される北信越地区研究大会では、皆様とともにPTA活動を考える充実した大会にできるよう今から実行委員の力を結集し、計画を進めています。多くの皆様の参加をお待ちしております。」と、いう力強い挨拶があり、最後に松下妙子北信越地区高P連会長の閉会挨拶で全日程を終了しました。



## 東海地区

### 岐阜大会

GIFU

地区大会報告

東海地区高P連では、地区大会開催日の午前中

に各県役員による総会を行ひ、午後から大会を開催しています。6月14日（金）、令和元年度東

海地区高等学校PTA連合会「岐阜大会」を、岐阜市の長良川国際会議場で開催し、東海4県から1,459名の皆さんのが参加がありました。

開会式では、東海地区高P連の国井重宏会長、全国高P連の牧田和樹会長が主催者として挨拶し、来賓の岐阜県教育委員会教育長の安福正寿様、岐

阜県高等学校校長協会会長の高木俊明様から祝辞をいただきました。開会式に続き、岐阜県高山市出身のNPO法人地球のステージ代表理事

二日目の記念講演は、信州大学教育学部の結城匡啓教授より「金メダリスト小平奈緒の成長を支えて選手の能力を最大限に伸ばすコーチング」と題してご講演を頂きました。長野オリンピック金メダリストの清水宏保選手や平昌オリンピック金メダリスト小平奈緒選手、そして、日本インカレ4連覇の信州大

学生スケート部のコチとしてどのように選手たちに関わっているか、その指導方針や、小平選手の競技に対する真摯な姿勢、また子どもの成長を暖かく見守るご両親の教育方針など、普段聞くことができない興味深いエピソードの数々に一時間半の講演時間は大変充実

したるものになりました。特に結城先生の指導方針「情報の与え方が、コーチとしての勝負だと思つてはいる。選手の自得といふ言葉がありますが、まさに選手が自分で自分を掴む。自分でいろんなことを獲得していく。学んでいく。これをサポートするというところが私の役割である。」という言葉が印象的でした。

閉会式では、長野大会の大会宣言が決議され、次期開催県福井県高P連の齋藤力会長より「来年福井で開催される北信越地区研究大会では、皆様とともにPTA活動を考える充実した大会にできるよう今から実行委員の力を結集し、計画を進めています。多くの皆様の参加をお待ちしております。」と、いう力強い挨拶があり、最後に松下妙子北信越地区高P連会長の閉会挨拶で全日程を終了しました。



結城匡啓氏

開会式に続き、岐阜県高山市出身のNPO法人地球のステージ代表理事



岐阜大会開会式

7月6日(土)、第45回近畿地区高等学校PTA連合会大会和歌山大会を「家庭での子供とのコミュニケーションの大しさ」をテーマに、近畿9府県市から2,000人を超える方々にご参加いただき、和歌山県民文化

会館大・小ホールに於いて開催致しました。

午前中の開会式では、主催者挨拶、来賓祝辞に統いて、近畿地区高P連広報紙コンクール入賞校の表彰式及び本年3月末をもつて退任された各府県市高P連会長・事務局

長並びに前年度近畿大会実行委員長に感謝状と記念品が贈られ、受賞者を代表して平成30年度奈良県高P協議会の河野信子会長が謝辞を述べられました。

## 和歌山大会

WAKAYAMA

## 「家庭での子供との「ハリコニケーション」の大切さ」

で心療内科医の桑山紀彦氏が「地球のステージほんとうのしあわせってなんだろう」というテーマで公演を行いました。桑山氏は日本で医師とし

映像・自作の音楽  
(歌)・トークを交えながらのもので、紛争と貧困・国際理解・世界平和・環境問題の中で、命の尊さ、生きることの意味、家族や仲間の大切さ、人の優

て診療を行う傍ら、パレスチナ、東ティモール等で国際医療支援活動を、また、東日本大震災では自ら被災しながらも直後から診療を再開するなど、国内外を問わず人々の心のケアを行うとともに、さらには、学校現場を中心全国各地で年間160回ほどの公演を行っています。当日の公演は映像・自作の音楽



各務原高校の発表

清原伸彦先生を講師に迎え、「清原流人を創る」やれば誰でもできる「」と題してご講演をいたしました。講演を聞いた参加者の皆さんからは、「感動で涙が出てきた」、「集団行動といふことで没個的かと思つていてたが、実は真逆で一人一人を大切にしていた」、「子供を立派に育てるには、先ず自分が立派であることに気づかされた」



清原伸彦氏

等の感想がありました。午後は、これまでの実践発表をパネルディスカッションに替えて開催しました。大阪体育大学岸田正幸教授にコーディネーターをお願いし、各府県市を代表して6名のパネラーの皆さんから様々な親子関係の話があり、参加者の皆さんも一度親子関係を見直す機会になつたと思います。また、この大会でも高



玉童高校の発表

天竜高校の発表  
躍されている身近な方による講演会の開催、文化祭においては地域の店舗と提携した「バザー」と模擬店など、常に地域を意識した活動実践を発表されました。発表後は参加者からの質問が多く出るなど子どもの成長と地域とのかかわりに軸足を置いた両校の発表は、多くの学校の参考となりました。



## 研究協議（鳥取県立鳥取東高等学校発表）

任を持たなければ、その責務を果たすことはできない。自分の言葉で子どもたちに語りかけよう。」と研修の意義を熱く語った挨拶に続き、全国高P連・牧田和樹会長、鳥取県教育委員会山本仁志教育長の挨拶、来賓の平井伸治鳥取県知

子の話「たくましく生きる力」の演題で、講演が行われました。人口減少は進み、効率性や経済性を求めて A.I が進歩する時代に、自分の子どもが将来どういう世界を生きていくのか。

どんな時代にあつても、自分の身についたものは、自分の財産であると、激動の時代にあつて、子どもたちの将来について考える機会をいただきました。

中国・四国地区

# 鳥取大会 TOTTORI

## 地区大会報告 ～巣立ち応援、親力（おやぢから）！！～

第61回中国・四国地区高等学校PTA連合会大會鳥取大会は、7月12日（金）、鳥取市のとりぎん文化会館において、1,500名の参加により盛会に開催しました。開会行事では、大会実行委員長の中四国高P連・西川昌孝会長が、「親は、子どもたちの人格形成に責任を持たなければ

事、深澤義彦鳥取市長から祝辞をいただきました。続いて、東京大学名譽教授・養老孟司氏を講師に迎え、「養老流親と子の話」たくましく生き

午後は、高校生の発表からスタート。鳥取県立岩美高等学校ブルーマーティン・ジャズ・オーケストラの“街がスウィングする”をテーマに、軽妙なジャズ演奏から始まりました。大会の受付会場でも歓迎セッショントとして、参加者の皆さんを迎えてくれました。続

言水先生が9年前の愛媛大会で見て、感動したのがきっかけで始めたといふことで、今回発表できしたことへの感謝を述べられました。

鳥取県立鳥取東高等学校  
網谷憲治前PTA会長  
から、それぞれ発表して  
いただき、その後活発な  
質疑応答があり、たいへ  
ん有意義な研究協議とな  
りました。

校生によるアトラクションにより大会を盛り上げいただきました。開会式前には、和歌山県立紀北農芸高校和太鼓部の皆さんに、心に響き渡る演奏を披露していただきました。昼休憩時には、和歌山県立紀央館高等学校書道部の書道パフォーマンスを披露していただきました。大きな字で「感謝」と書かれていて、我が家



## 和歌山県立紀北農芸高校和太鼓部の皆さん



## 和歌山県立紀央館高校書道部のパフォーマンス

子からのメッセージだと思い参加者の皆さんから大きな拍手がありました。また、物産品コーナーも盛況でした。  
閉会行事では、和歌山大会の大会宣言が決議され、その後、次期開催県の奈良県から会場が一つになるような挨拶がありました。



次期開催は奈良県

立三次中学校・高等学校  
法野谷智P.T.A顧問、  
『愛と奉仕』そして感謝  
「133年を振り返つて  
」と題して、山陽女子  
中学校・高等学校 渡邊  
孝一緑会(PTA)会長、  
「大切にしたい思春期の  
食生活親から子に伝え  
る生きる力」と題して、

は、境港総合技術高等学  
校食品・ビジネス科の生  
徒による実習製品、地  
元産の鰯とマグロの缶詰  
を作つてもらいました。ま  
た、高校生による農業実  
習や食品加工実習などの  
生産品販売も大盛況でし  
た。今大会では、高校生  
も大活躍してくれました。

言水先生が9年前の愛媛大会で見て、感動したのがきっかけで始めたといふことで、今回発表できしたことへの感謝を述べられました。

鳥取県立鳥取東高等学校  
網谷憲治前PTA会長  
から、それぞれ発表して  
いただき、その後活発な  
質疑応答があり、たいへ  
ん有意義な研究協議とな  
りました。

A photograph showing a group of people from behind, looking towards a stage or area where a banner is being held. The banner has Japanese characters on it, likely related to the festival. The scene appears to be at night or in low light.

## 「未来人財育成 新しい時代を切り拓け！」

地区大会報告

## 福岡大会

## FUKUOKA

令和元年6月22日全国高等学校PTA連合会の定時総会が行われました。文部科学大臣 柴山昌彦様ご臨席の下、盛会の中終えることができました。

第1号議案 平成30年度  
決承認されました。  
代表理事（会長）には、  
牧田和樹氏が再任され、  
令和元年度新理事会がス  
タートいたしました。



柴山文部科学大臣

### 令和元年度 定時総会報告

ORDINARY GENERAL MEETING REPORT

事業報告

第2号議案 平成30年度  
収支決算報告・監査報告第3号議案 令和元年度  
役員の選任第4号議案 令和元年度  
会長・副会長・専務理事・常務理事の選任及び会長  
選出地区補充理事の選任以上、全ての議事が可  
決承認されました。以上、全ての議事が可  
決承認されました。以上、全ての議事が可  
決承認されました。以上、全ての議事が可  
決承認されました。

アトラクション

第63回九州地区  
高等学校PTA連  
合会大会福岡バ  
リよかつ大会は、「未来人財育成  
新しい時代を切  
り拓け！」をテー  
マに九州各县から  
3,002名の会  
員が参加し、6月  
20日（木）・21日（金）  
の2日間にわたり  
福岡市の福岡国際マに九州各县から  
3,002名の会  
員が参加し、6月  
20日（木）・21日（金）  
の2日間にわたり  
福岡市の福岡国際会議場、福岡サンパレス  
ホテル&ホールで開催さ  
れました。20日（木）には、福岡  
国際会議場において九高  
P連の4委員会、理事会、  
総会が開催され、新しい  
時代・令和元年への第一  
歩を踏み出しました。懇  
談会は、ホテルニューオー  
ータニ博多に会場を移  
し、多くの関係者の参加  
のもと開催されました。

令和元年度理事・監事・顧問



会場

午前中に福岡国際会議場と福岡サンパレスホテル&ホールにおいて分科会が開催されました。第1分科会は「青少年の健全育成とPTA活動」のテーマで鹿児島県、熊本県、佐賀県、宮崎県からの実践発表、第2分科会は「進路指導とPTA活動」のテーマで長崎県、大分県、沖縄県、福岡県からの実践発表があり、質疑も活発に行われました。この発表を通して得たヒントを学校に持ち帰り、いろいろ新しい取り組みなどを考えていきたいといったご意見をいただきました。第3分科会は「主体的な防災とPTA活動」のテーマでパネルディスカッションが行われました。基調講演では、元熊本県立熊本工業高校定時制教頭の富田孝一先生から「熊本地震あのとき熊工は…」

と題して、定時制教頭の体験から「主体的な防災とPTA活動」についてお話をいただきました。富田先生にはコーディネーターもお願いし、パネリストは、県立朝倉高校PTAの藤井前会長から、地域ボランティアの取り組みや学校の写真部生徒からの「災害で汚れた写真」を助けたいという要望を地元と繋ぎその活動を支援したことなどについて、また、県立朝倉光陽高校PTA友永前会長からは、災害時に自分を守り、共に助け合う大切や、学校の特色を活かしたボランティア活動・地域貢献への取り組みについて、更に県立八女工業高校生徒代表として井手口保健委員長からは、生徒に対する災害に関する意識調査の結果や災害時の連絡手段などについてお話ししていました。PTAが協力して個人としては、命を守り、全体としては、命を守るなど、日頃聞くこと

アツブして欲しいというご意見もいただきました。アトラクションは、県立福岡講倫館高校ダンス部による「color～福岡講倫館らしさ～」をテーマにした創作ダンスが披露されました。講演は、公益社団法人日本医師会会長の横倉義武氏により「健康な社会を作ろう」と題して行いました。ご自身の医師としての歩み、医師会の役割、世界医師会について、人生100年時代に向けた健康長寿社会づくりなど、日頃聞くこと



九高P連旗の引継ぎ

講演、たつたと思います。閉会式では、「九州は一つ」の合い言葉のもと、九高P連旗が福岡大会三根会長から次期開催県宮崎県連の黒田会長に引き継がれました。

## 令和元年度一般社団法人全国高等学校PTA連合会役員・委員会名簿

役職名	氏名	担当	推薦区分	県名	備考
会長(代表理事)	牧田和樹	総務委員	北信越	富山	
副会長	森崎綾子	総務委員 研修委員長	理事会	京都府	
副会長	泉満	総務委員 総務委員長	理事会	香川	
副会長	大石幸和	総務委員 調査広報委員長	理事会	神奈川	
専務理事(業務執行理事)	金田淳	総務委員 賠償責任補償制度運営委員長	理事会	栃木	
常務理事(業務執行理事)	大塚一雄	総務委員	全国高等学校長協会	事務局長	
理事	新井田寛	総務委員 健全育成委員長	北海道	北海道	北海道地区会長
理事	山田博章	総務委員 進路対策委員長	理事会	和歌山	
理事	安食克彦		東北	山形	東北地区会長
理事	大澤栄一郎		関東	群馬	関東地区会長
理事	橋本政幸		東京	東京	東京地区会長
理事	松下妙子		北信越	長野	北信越地区会長
理事	國井重宏		東海	岐阜	東海地区会長
理事	森山加弥代		近畿	奈良	近畿地区会長
理事	西川昌孝		中国四国	鳥取	中国四国地区会長
理事	黒田仁志		九州	宮崎	九州地区会長
代表監事	木戸浩久		理事会	大分	任期継続2年目
監事	三木大三		近畿	兵庫	任期継続2年目
顧問	佐野元彦			前会長	
相談役	相川順子			元会長	
相談役	上村肇			全国高等学校長協会事務局長	

### 総務委員会

職名	所属県名	氏名
委員長・副会長	香川	泉満
会長	富山	牧田和樹
副会長・研修委員長	京都府	森崎綾子
副会長・調査広報委員長	神奈川	大石幸和
専務理事	栃木	金田淳
常務理事	校長協会	大塚一雄
健全育成委員長	北海道	新井田寛
進路対策委員長	和歌山	山田博章

### 健全育成委員会

職名	所属県名	氏名
委員長・理事	北海道	新井田寛
委員	秋田	石嶋勝比古
委員	茨城	中村慎一
委員	東京	小林恵美
委員	福井	齋藤力
委員	三重	太田秀典
委員	滋賀	清水あすか
委員	高知	小串和久
委員	大分	和田俊二

### 進路対策委員会

職名	所属県名	氏名
委員長・理事	和歌山	山田博章
委員	北海道	森政徒
委員	青森	中村美津緒
委員	山梨	土橋正洋
委員	東京	松井真由美
委員	石川	粟田真人
委員	愛知	堀場文彰
委員	和歌山	山田博章
委員	鳥取	西川昌孝
委員	熊本	夏木良博

### 調査広報委員会

職名	所属県名	氏名
委員長・理事	神奈川	大石幸和
委員	北海道	山本美加
委員	宮城	鎌田美千代
委員	神奈川	中野真衣子
委員	東京	野間恵子
委員	富山	深松茂
委員	静岡	小山全司
委員	神戸市	橋本恭子
委員	愛媛	田窪孝和
委員	佐賀	西岡豊

### 研修委員会

職名	所属県名	氏名
委員長・理事	京都府	森崎綾子
委員	北海道	海東剛哲
委員	岩手	清水成樹
委員	千葉	永井豊和
委員	東京	橋本政幸
委員	新潟	佐藤康司
委員	岐阜	國井重宏
委員	京都府	大野百合
委員	島根	大屋光宏
委員	沖縄	宮城光秀

### 賠償責任補償制度運営委員会

職名	所属県名	氏名
委員長・専務理事	栃木	金田淳
委員	北海道	井村美彦
委員	宮城	三塚明彦
委員	埼玉	木田一彦
委員	東京	芦沢貴美枝
委員	石川	下根浩明
委員	三重	水野恵宏
委員	滋賀	川嶋典明
委員	鳥取	荻原恵子
委員	大分	宮瀬雅士

## 一般社団法人全国高等学校PTA連合会 組織概要

### 1 本法人の目的（定款第2条）

この法人は、高等学校PTA活動を通して社会教育、家庭教育の充実及び学校教育との連携に努め、わが国の次代を担う青少年の健全育成を図り、もって生涯学習社会の形成に寄与することを目的とする。

### 2 本法人の事業（定款第4条）

この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 高等学校PTA活動の質的向上に資する研究大会、講演会、研修会等の開催
- (2) 高等学校PTA活動に関する調査研究
- (3) 青少年の健全育成及び生涯学習に資する情報の収集と提供
- (4) 広報紙等の刊行
- (5) この法人の目的に沿い、顕著な業績をあげたPTAその他の団体及び個人の顕彰
- (6) 社会環境（教育環境）整備のための活動、家庭の健全化を図る活動
- (7) 賠償責任補償制度運営に関する活動
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項各号の事業は、日本全国において行う。

### 高等学校PTA

各学校PTA加盟会員=約4,000校／約220万人

### 都道府県市高等学校PTA連合会

50団体(=全国高P連会員)

### 地区高等学校PTA連合会(9地区)

北海道・東北・関東・東京・北信越  
東海・近畿・中国四国・九州

#### 総会

監事(2名)

#### 理事会(15~16名)

総務委員会

会長(代表理事)

健全育成委員会

副会長2~3名

進路対策委員会

専務理事(業務執行理事)1名

調査広報委員会

常務理事(業務執行理事)1名

研修委員会

理事 10名

賠償責任補償制度運営委員会

事務局

一般社団法人  
**全国高等学校PTA連合会**



## 一般社団法人全国高等学校PTA連合会 会員概況

令和元年9月1日現在

	会員団体数 =連合会数	各団体加盟状況		賠償責任補償制度加入状況	
		学校数	生徒数(人)	学校数	生徒数(人)
北海道地区連合会	1道	270	104,469	132	44,842
東北地区連合会	6県	450	186,486	307	131,668
関東地区連合会	7県	762	502,991	431	313,291
東京地区連合会	1都	66	45,454	19	13,426
北信越地区連合会	5県	323	163,194	126	62,294
東海地区連合会	4県	476	293,496	326	191,621
近畿地区連合会	2府4県3市	521	337,452	375	251,856
中国四国地区連合会	9県	526	234,886	289	142,677
九州地区連合会	8県	591	281,997	226	113,061
合計	50団体	3,985	2,150,425	2,231	1,264,736

## 全国高等学校PTA連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか?  
全国加盟高校の2校に1校が加入しています。

### 掛金

**年間400円** (保険料391円+制度維持費9円) × 生徒数

※補償開始日が平成31年4月1日の場合。補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。



### 補償期間

**令和2年4月1日～令和3年4月1日**

補償の範囲と支払済高額事故事例

<生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります>

補償の範囲	補償限度額		事故発生件数割合
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 <sup>(注)</sup> <b>1事故1億円</b> 自己負担額1事故5千円 (注) 対人事故・対物事故合算して1億円が限度となります。		<b>99%超</b>
2. PTA活動の遂行に起因する賠償責任 (PTAの賠償責任保険)	対人	1名5千万円・1事故5億円	<b>1%未満</b>
	対物	1事故5千万円	
		自己負担額1事故1千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物	加害者1名 10万円 保険期間中 500万円 自己負担額1事故5千円	

年度	支払額(千円)	事故内容
H19年度	87,915	無灯火の自転車で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。 <b>【過去最高支払額】</b>
H24年度	40,206	自転車で歩行者と衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。
H24年度	20,040	ゴルフの練習中にゴルフクラブが友人の左目にあたり失明。
H26年度	23,602	自転車で歩行者に後ろから衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向にあります、**自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております☆**

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。  
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

### ●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会  
東京都千代田区神田佐久間町2-1  
奥田ビル301号  
TEL.03-5835-5711

### ●引受保険会社

引受幹事保険会社 東京海上日動火災保険株式会社  
(担当:公務第二部 文教スポーツ)  
共同引受保険会社 AIG損害保険株式会社  
三井住友海上火災保険株式会社  
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

TEL.03-3515-4133  
TEL.03-6848-8480  
TEL.03-3259-4061  
TEL.03-3349-9588



「育てたいのは、  
子供たちの未来。」

私たち AIG 高校生外交官プログラムを協賛しています。

AIG損害保険株式会社

tel:03-6848-8500 https://www.aig.co.jp



挑戦の  
数だけ、  
保険が  
ある。

To Be a Good Company



東京海上日動



損保ジャパン日本興亜

損保ジャパン日本興亜は  
SOMPOホールディングスの一員です。  
損害保険ジャパン日本興亜株式会社  
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
TEL. 03-3349-3111  
(公式ウェブサイト) http://www.sjnk.co.jp/